

平成30年11月26日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学
教授 片渕秀隆

拝啓

年に10校ほどの高校・大学での授業のまくらは、ノーベル賞にしています。1949年の日本人最初の受賞者である湯川秀樹博士から1994年まではわずか8人、その後6年間の空白を経て、2000年に入るとほぼ毎年の様に受賞者が出て、18人にもものぼります。嬉しいことに、毎年スライドの一部を変更することが求められ、今年も早速京都大学の本庶 佑教授の顔写真と業績を加えて授業をしています。

オランダで思い出すのは、子どもの頃はチューリップ、学生時代は蘭学だったように思いますが、研究を始めてからは、ライデン大学から多くの著明な研究者が出ていることを知りました。特に、マクロファージ研究の長い歴史の中で、単核球食細胞系 (MPS) 学説を1969年に発表したR. van Furth 教授の講演を大学院生の頃の1984年に聴いたことを思い出します。そのオランダを初めて訪ねる機会に先日恵まれました。10月初めでしたが、気温は10°Cを下回り、日本から持参した防寒具無しでは朝晩は過ごせない気候でした。オランダ語の国名であるNederlandの意味が「低地の国」であることが示すように、首都のアムステルダムは半円周状の何重もの運河が北海とを繋ぎ、水上ボートが市民や旅行者の足となり、さらに驚いたことに、歩行者は猛スピードで走る無数の自転車を避けるのが常識のようで、自転車ファーストの国でした。国立美術館には、17世紀のレンブラントやフェルメールなど中世・ルネッサンスから20世紀までの絵画が収納・展示されていました。壁一面ほどの大きな『夜警』や『青衣の女』は観ることが出来ましたが、極めて残念で笑い話だったのが、最も人気のある『牛乳を注ぐ女』をはじめフェルメールの9点は、東京上野の森美術館で展覧中でした。また、予約なしの当日入館がほぼ不可能とされている「アンネ・フランクの家」にも入ることが出来ました。ドイツ軍のオランダ侵攻がもたらしたユダヤ人の悲劇が、一家が2年間過ごした屋根裏部屋での生活の様子から初めて正確に知ることが出来ました。その一方で、この頃の疫学調査をもとに胎児プログラミング説を提唱したBaker 仮説が生まれたのは皮肉です。

12月と新年1月の予定表を同封致しました。12月28日(金)の午後7時から、恒例の教室忘年会をホテル日航熊本で行います。沢山のご来場をお待ちしております。

敬具